

平成19年9月27日

報 道 発 表  
( 年 次 別 調 査 )

財 務 省

連絡問合せ先  
財務総合政策研究所  
調査統計部調査統計課  
TEL 3581-4111  
(内線) 2226  
5325  
直通 3581-8813  
財務省ホームページアドレス  
<http://www.mof.go.jp/>

「年次別法人企業統計調査」は、我が国の金融・保険業を除く営利法人の決算計数を取りまとめたものである。

当調査結果から平成18年度の企業動向をみると、売上高については、製造業、非製造業ともに増収となった。経常利益については、製造業、非製造業ともに増益となった。また、設備投資(注)については、製造業、非製造業ともに増加となった。

(注) 設備投資とは、調査対象年度中の有形固定資産(土地を除く)増減額及びソフトウェア増減額に減価償却費及び特別減価償却費を加算したものである。

[参 考]

この調査は、金融・保険業を除く営利法人を対象とした無作為抽出による標本調査(標本法人の調査結果に基づいて母集団法人の推計値を算出したもの)である。

資本金区分	1,000万円未満	1,000万円以上1億円未満	1億円以上10億円未満	10億円以上	合計
母集団法人数(社)	1,564,588	1,137,685	27,745	5,612	2,735,630
標本法人数(社)	6,038	10,313	9,285	5,612	31,248
回答法人数(社)	4,228	8,304	7,885	5,203	25,620
回答率(%)	70.0	80.5	84.9	92.7	82.0

第1表 売上高の推移

(単位：億円、%)

1. 収益の状況

(1) 売上高 (第1表、第1図)

売上高は1,566兆4,329億円で、前年度(1,508兆1,207億円)を58兆3,122億円上回り、対前年度増加率(以下「増加率」という)は3.9%(前年度6.2%)となった。

業種別の増加率をみると、製造業では、化学、金属製品などで減収となったものの、輸送用機械、食料品などで増収となったことから、製造業全体では3.5%(同6.2%)となった。

一方、非製造業では、サービス業、不動産業で減収となったものの、卸売・小売業、運輸業などで増収となったことから、非製造業全体では4.0%(同6.2%)となった。

資本金階層別でみると、1,000万円～1億円の階層では前年度を下回ったが、他の階層においては前年度を上回った。

区分	平成 14		15		16		17		18	
	年度	増加率	年度	増加率	年度	増加率	年度	増加率	年度	増加率
全 産 業	13,268,020	△ 0.9	13,346,737	0.6	14,203,559	6.4	15,081,207	6.2	15,664,329	3.9
製 造 業	3,775,312	△ 1.4	3,849,499	2.0	4,096,885	6.4	4,349,949	6.2	4,503,358	3.5
食 料 品	446,977	4.7	418,198	△ 6.4	449,955	7.6	439,496	△ 2.3	470,089	7.0
化 学	359,496	1.0	375,180	4.4	359,901	△ 4.1	413,336	14.8	401,954	△ 2.8
石 油 ・ 石 炭	143,586	4.3	146,273	1.9	161,922	10.7	200,811	24.0	193,328	△ 3.7
鉄 鋼 業	125,124	2.4	129,350	3.4	156,049	20.6	184,095	18.0	198,640	7.9
金 属 製 品	169,866	△ 14.0	160,660	△ 5.4	198,491	23.5	200,565	1.0	192,394	△ 4.1
一 般 機 械	270,826	3.2	303,135	11.9	322,410	6.4	354,556	10.0	370,383	4.5
a 電 気 機 械	684,730	△ 7.3	699,690	2.2	468,263		447,773	△ 4.4	477,758	6.7
b 情 報 通 信 機 械					347,226		333,279	△ 4.0	357,949	7.4
[ a + b ]					[815,489]	[16.6]	[781,052]	[△ 4.2]	[835,707]	[7.0]
輸 送 用 機 械	551,196	3.2	591,122	7.2	585,497	△ 1.0	614,599	5.0	697,662	13.5
非 製 造 業	9,492,707	△ 0.6	9,497,238	0.0	10,106,673	6.4	10,731,258	6.2	11,160,970	4.0
建 設 業	1,354,464	△ 2.8	1,274,554	△ 5.9	1,248,007	△ 2.1	1,288,562	3.2	1,349,908	4.8
卸 売 ・ 小 売 業	5,164,403	△ 2.1	5,103,098	△ 1.2	5,344,470		5,370,332	0.5	5,845,161	8.8
[ 含 む 飲 食 店 ]					[5,558,053]	[8.9]	[5,545,506]	[△ 0.2]	[5,996,151]	[8.1]
不 動 産 業	334,761	5.1	336,283	0.5	332,507	△ 1.1	344,997	3.8	338,586	△ 1.9
c 情 報 通 信 業	805,872	2.7	832,882	3.4	527,569		558,955	5.9	589,865	5.5
d 運 輸 業					588,034		576,735	△ 1.9	676,951	17.4
[ c + d ]					[1,115,603]	[33.9]	[1,135,690]	[1.8]	[1,266,816]	[11.5]
電 気 業	155,553	△ 3.2	151,459	△ 2.6	161,345	6.5	165,455	2.5	167,822	1.4
サ ー ビ ス 業	1,613,375	3.5	1,738,957	7.8	1,531,159	△ 11.9	2,061,934	34.7	1,846,746	△ 10.4
資 本 金 別										
10 億 円 以 上	5,007,745	△ 2.3	5,085,312	1.5	5,392,590	6.0	5,652,022	4.8	5,980,023	5.8
1 億 円 ～ 10 億 円	2,032,211	3.1	2,103,239	3.5	2,328,367	10.7	2,309,335	△ 0.8	2,540,417	10.0
1,000 万 円 ～ 1 億 円	5,229,188	△ 0.7	5,119,914	△ 2.1	5,343,070	4.4	6,008,179	12.4	5,870,092	△ 2.3
1,000 万 円 未 満	998,875	△ 2.2	1,038,271	3.9	1,139,532	9.8	1,111,671	△ 2.4	1,273,796	14.6

(2) 経常利益 (第2表、第2図)

経常利益は54兆3,786億円で、前年度(51兆6,926億円)を2兆6,860億円上回り、増加率は5.2%(前年度15.6%)となった。

業種別の増加率をみると、製造業では、石油・石炭、食料品などで減益となったものの、一般機械、情報通信機械などで増益となったことから、製造業全体では9.3%(同11.9%)となった。

一方、非製造業では、サービス業、卸売・小売業などで減益となったものの、不動産業、運輸業などで増益となったことから、非製造業全体では2.2%(同18.5%)となった。

資本金階層別にみると、1,000万円～1億円及び1,000万円未満の階層で前年度を下回ったが、10億円以上及び1億円～10億円の階層で前年度を上回った。

第2表 経常利益の推移

(単位：億円、%)

区分	年度	平成14		15		16		17		18	
			増加率		増加率		増加率		増加率		増加率
全産業		310,049	9.8	361,989	16.8	447,035	23.5	516,926	15.6	543,786	5.2
製造業		121,391	14.3	150,863	24.3	194,725	29.1	217,842	11.9	238,066	9.3
食料品		12,702	0.5	13,350	5.1	15,218	14.0	13,447	△ 11.6	13,082	△ 2.7
化学		27,442	5.4	28,130	2.5	35,344	25.6	35,615	0.8	37,590	5.5
石油・石炭		1,692	△ 12.5	1,737	2.7	4,558	162.3	5,065	11.1	4,377	△ 13.6
鉄鋼業		2,861	861.7	6,332	121.3	14,966	136.3	19,458	30.0	19,877	2.2
金属製品		3,543	△ 26.0	5,638	59.1	7,958	41.2	7,430	△ 6.6	7,218	△ 2.8
一般機械		6,157	△ 14.3	10,791	75.3	15,892	47.3	19,586	23.2	25,198	28.6
a電気機械	}	11,926	1467.2	21,392	79.4	16,077		17,362	8.0	20,096	15.7
b情報通信機械						13,676		9,305	△ 32.0	13,313	43.1
[a+b]						[29,753]	[39.1]	[26,667]	[△ 10.4]	[33,409]	[25.3]
輸送用機械		25,249	13.5	28,509	12.9	27,114	△ 4.9	35,754	31.9	38,529	7.8
非製造業		188,658	7.0	211,125	11.9	252,310	19.5	299,084	18.5	305,720	2.2
建設業		18,124	△ 4.4	19,883	9.7	22,994	15.6	21,332	△ 7.2	24,940	16.9
卸売・小売業		59,412	6.4	68,054	14.5	78,140		93,757	20.0	91,053	△ 2.9
[含む飲食店]						[80,515]	[18.3]	[96,293]	[19.6]	[91,401]	[△ 5.1]
不動産業		23,880	23.2	17,584	△ 26.4	21,673	23.3	23,324	7.6	34,648	48.5
c情報通信業	}	36,262	58.1	39,124	7.9	32,256		37,621	16.6	38,275	1.7
d運輸業						23,461		24,515	4.5	29,829	21.7
[c+d]						[55,717]	[42.4]	[62,136]	[11.5]	[68,104]	[9.6]
電気業		10,040	△ 3.1	10,738	7.0	13,807	28.6	12,983	△ 6.0	11,427	△ 12.0
サービス業		36,491	△ 18.8	51,630	41.5	49,844	△ 3.5	70,382	41.2	58,993	△ 16.2
資本金別											
10億円以上		183,480	19.7	209,919	14.4	257,853	22.8	294,326	14.1	328,342	11.6
1億円～10億円		46,613	17.8	55,819	19.7	67,011	20.1	68,475	2.2	81,293	18.7
1,000万円～1億円		83,706	△ 1.0	87,515	4.5	111,945	27.9	144,667	29.2	127,142	△ 12.1
1,000万円未満		△ 3,751	△ 174.7	8,736	*	10,225	17.0	9,459	△ 7.5	7,009	△ 25.9

(注) \*印は前年度計数がマイナスのため算出できなかったものである。

(参考) 営業利益の推移

(単位：億円、%)

区分	年度	平成14		15		16		17		18	
			増加率		増加率		増加率		増加率		増加率
全産業		320,423	8.4	367,202	14.6	435,751	18.7	477,034	9.5	492,855	3.3
製造業		121,957	18.6	149,405	22.5	184,420	23.4	194,887	5.7	210,234	7.9
非製造業		198,465	3.0	217,797	9.7	251,331	15.4	282,148	12.3	282,620	0.2

第3表 諸比率の推移

(単位：%)

(3) 諸比率 (第3表)

売上高営業利益率は3.1%で前年度 (3.2%) を下回り、売上高経常利益率は3.5%で前年度 (3.4%) を上回った。

売上高営業利益率を業種別で見ると、製造業は4.7%で前年度 (4.5%) を上回り、非製造業は2.5%で前年度 (2.6%) を下回った。

売上高経常利益率を業種別で見ると、製造業では5.3%で前年度 (5.0%) を上回り、非製造業では2.7%で前年度 (2.8%) を下回った。

区分	年度(平成)					売上高営業利益率					売上高経常利益率				
	14	15	16	17	18	14	15	16	17	18	14	15	16	17	18
全産業	2.4	2.8	3.1	3.2	3.1	2.3	2.7	3.1	3.4	3.5					
製造業	3.2	3.9	4.5	4.5	4.7	3.2	3.9	4.8	5.0	5.3					
食料品	2.8	3.3	3.2	2.8	2.4	2.8	3.2	3.4	3.1	2.8					
化学	7.6	7.5	9.3	7.8	8.5	7.6	7.5	9.8	8.6	9.4					
石油・石炭	1.3	1.3	2.9	2.5	1.9	1.2	1.2	2.8	2.5	2.3					
鉄鋼業	3.4	5.9	10.2	11.1	9.9	2.3	4.9	9.6	10.6	10.0					
金属製品	2.2	3.4	3.9	3.7	3.3	2.1	3.5	4.0	3.7	3.8					
一般機械	2.2	3.7	4.7	5.2	5.9	2.3	3.6	4.9	5.5	6.8					
a 電気機械	1.5	2.8	2.8	3.0	3.9	1.7	3.1	3.4	3.9	4.2					
b 情報通信機械			3.7	2.8	3.2			3.9	2.8	3.7					
[ a + b ]			[3.2]	[2.9]	[3.6]			[3.6]	[3.4]	[4.0]					
輸送用機械	4.7	4.5	4.2	4.8	4.5	4.6	4.8	4.6	5.8	5.5					
非製造業	2.1	2.3	2.5	2.6	2.5	2.0	2.2	2.5	2.8	2.7					
建設業	1.3	1.4	1.7	1.5	1.7	1.3	1.6	1.8	1.7	1.8					
卸売・小売業	1.0	1.2	1.2	1.4	1.2	1.2	1.3	1.5	1.7	1.6					
[ 含む飲食店 ]			[1.2]	[1.4]	[1.1]			[1.4]	[1.7]	[1.5]					
不動産業	9.6	7.5	8.1	9.1	11.0	7.1	5.2	6.5	6.8	10.2					
c 情報通信業	5.1	5.1	6.1	6.4	5.9	4.5	4.7	6.1	6.7	6.5					
d 運輸業			4.8	5.0	4.9			4.0	4.3	4.4					
[ c + d ]			[5.4]	[5.7]	[5.4]			[5.0]	[5.5]	[5.4]					
電気業	12.0	12.0	12.8	10.8	9.3	6.5	7.1	8.6	7.8	6.8					
サービス業	2.2	2.9	3.1	2.8	2.9	2.3	3.0	3.3	3.4	3.2					
資本金別															
10億円以上	4.0	4.4	4.8	4.9	5.0	3.7	4.1	4.8	5.2	5.5					
1億円～10億円	2.4	2.7	2.9	2.9	3.0	2.3	2.7	2.9	3.0	3.2					
1,000万円～1億円	1.5	1.6	2.0	2.1	1.9	1.6	1.7	2.1	2.4	2.2					
1,000万円未満	△0.8	0.4	0.7	0.3	0.2	△0.4	0.8	0.9	0.9	0.6					

(4) 利益処分（第4表）

第4表 利益処分の推移

（単位：億円、％）

当期純利益は28兆1,650億円で、前年度（23兆1,569億円）を5兆81億円上回った。

区分	平成 14		15		16		17		18	
	年度	構成比	年度	構成比	年度	構成比	年度	構成比	年度	構成比
当期純利益	62,230	100.0	131,601	100.0	168,210	100.0	231,569	100.0	281,650	100.0
役員賞与	8,967	14.4	9,677	7.3	12,313	7.3	15,225	6.6	0	0.0
配当金	65,093	104.6	72,335	55.0	85,849	51.0	125,286	54.1	162,174	57.6
内部留保	△ 11,830	△ 19.0	49,589	37.7	70,048	41.6	91,058	39.3	119,475	42.4

（注）当期純利益＝経常利益＋特別利益－特別損失－法人税、住民税及び事業税－法人税等調整額

2. 付加価値（第5表、第3図）

第5表 付加価値の構成

（単位：億円、％）

付加価値は290兆7,755億円で、前年度（281兆2,265億円）を9兆5,490億円上回った（増加率3.4％）。

付加価値の構成比をみると、租税公課は1.0ポイント、営業純益は0.5ポイントとそれぞれ前年度を上回ったが、人件費は0.7ポイント、支払利息等は0.6ポイント、動産・不動産賃借料は0.2ポイントとそれぞれ前年度を下回った。

また、付加価値率は18.6％で前年度と同水準であり、労働生産性は694万円と前年度（676万円）を18万円上回った。

区分	平成 14		15		16		17		18	
	年度	構成比	年度	構成比	年度	構成比	年度	構成比	年度	構成比
付加価値	2,578,691	100.0	2,574,611	100.0	2,741,996	100.0	2,812,265	100.0	2,907,755	100.0
人件費	1,899,189	73.7	1,843,033	71.6	1,915,175	69.8	1,968,475	70.0	2,013,560	69.3
支払利息等	109,119	4.2	101,961	4.0	96,372	3.5	110,198	3.9	96,475	3.3
動産・不動産賃借料	258,664	10.0	268,181	10.4	281,664	10.3	272,862	9.7	275,342	9.5
租税公課	100,415	3.9	96,195	3.7	109,407	4.0	93,894	3.3	125,998	4.3
営業純益	211,304	8.2	265,241	10.3	339,378	12.4	366,836	13.1	396,379	13.6
付加価値率	19.4		19.3		19.3		18.6		18.6	
労働生産性（万円）	712		703		694		676		694	

（注） 1. 付加価値＝人件費＋支払利息等＋動産・不動産賃借料＋租税公課＋営業純益

2. 営業純益＝営業利益－支払利息等

3. 付加価値率 =  $\frac{\text{付加価値}}{\text{売上高}} \times 100$

4. 労働生産性 =  $\frac{\text{付加価値}}{\text{従業員数}}$

第6表 設備投資の推移

(単位：億円、%)

3. 投資の動向

(1) 設備投資 (第6表)

設備投資額 (第6表 注1参照) は44兆1,365億円であり、前年度 (38兆6,095億円) を5兆5,270億円上回り、増加率は14.3% (前年度△3.9%) となった。

業種別の増加率をみると、製造業では、輸送用機械で減少したものの、情報通信機械、鉄鋼業などで増加したことから、製造業全体では9.6% (同10.0%) となった。一方、非製造業では、卸売・小売業、建設業で減少したものの、サービス業、運輸業などで増加したことから、非製造業全体では17.1% (同△10.6%) となった。

区分	年度	平成 14		15		16		17		18	
			増加率		増加率		増加率		増加率		増加率
全 産 業	299,610	△ 19.2	325,610	8.7	401,841	23.4	386,095	△ 3.9	441,365	14.3	
	(297,479)	(△18.5)	(316,319)	(6.3)	(400,722)	(26.7)	(385,501)	(△3.8)	(437,620)	(13.5)	
製 造 業	91,849	△ 20.4	98,797	7.6	130,849	32.4	143,872	10.0	157,684	9.6	
	(90,390)	(△19.9)	(96,835)	(7.1)	(129,819)	(34.1)	(143,434)	(10.5)	(157,485)	(9.8)	
食 料 品	8,945	△ 21.8	6,197	△ 30.7	9,404	51.7	12,511	33.0	14,428	15.3	
化 学	12,913	△ 15.0	10,010	△ 22.5	13,713	37.0	13,193	△ 3.8	13,563	2.8	
石 油 ・ 石 炭	2,660	813.0	1,341	△ 49.6	2,796	108.4	1,678	△ 40.0	2,806	67.3	
鉄 鋼 業	3,713	△ 24.7	2,811	△ 24.3	5,181	84.3	6,344	22.4	9,378	47.8	
金 属 製 品	3,520	△ 34.3	3,856	9.6	7,841	103.3	5,873	△ 25.1	6,546	11.5	
一 般 機 械	5,008	△ 19.0	10,252	104.7	7,578	△ 26.1	12,616	66.5	13,489	6.9	
a 電 気 機 械	14,753	△ 40.8	17,680	19.8	13,766		13,010	△ 5.5	15,868	22.0	
b 情 報 通 信 機 械					16,441		14,293	△ 13.1	17,784	24.4	
[ a + b ]					[30,207]	[70.8]	[27,303]	[△9.6]	[33,652]	[23.3]	
輸 送 用 機 械	16,196	△ 2.2	19,383	19.7	21,243	9.6	26,209	23.4	25,630	△ 2.2	
非 製 造 業	207,761	△ 18.7	226,814	9.2	270,991	19.5	242,223	△ 10.6	283,681	17.1	
	(207,089)	(△17.9)	(219,484)	(6.0)	(270,903)	(23.4)	(242,067)	(△10.6)	(280,135)	(15.7)	
建 設 業	9,201	△ 34.3	9,747	5.9	11,167	14.6	14,885	33.3	12,848	△ 13.7	
卸 売 ・ 小 売 業	33,122	△ 26.1	56,141	69.5	36,973		34,132	△ 7.7	31,642	△ 7.3	
[ 含む飲食店 ]					[41,809]	[△25.5]	[36,610]	[△12.4]	[33,881]	[△7.5]	
不 動 産 業	12,987	△ 12.1	22,824	75.7	17,436	△ 23.6	13,657	△ 21.7	18,381	34.6	
c 情 報 通 信 業	49,527	△ 8.9	19,508	△ 60.6	35,975		38,539	7.1	46,844	21.5	
d 運 輸 業					35,251		27,651	△ 21.6	40,205	45.4	
[ c + d ]					[71,227]	[265.1]	[66,190]	[△7.1]	[87,048]	[31.5]	
電 気 業	16,119	△ 25.0	13,241	△ 17.9	11,222	△ 15.2	12,205	8.8	12,897	5.7	
サ ー ビ ス 業	84,879	△ 17.0	102,214	20.4	112,632	10.2	89,301	△ 20.7	109,837	23.0	
資 本 金 別											
10 億 円 以 上	176,586	△ 15.2	193,548	9.6	231,346	19.5	229,319	△ 0.9	258,846	12.9	
1 億 円 ～ 10 億 円	41,268	△ 15.1	17,713	△ 57.1	48,292	172.6	44,354	△ 8.2	68,745	55.0	
1,000 万 円 ～ 1 億 円	66,687	△ 30.4	93,031	39.5	93,887	0.9	98,816	5.2	89,028	△ 9.9	
1,000 万 円 未 満	15,069	△ 17.2	21,317	41.5	28,315	32.8	13,607	△ 51.9	24,747	81.9	

(注) 1. 設備投資=調査対象年度中の有形固定資産(土地を除く)増減額+ソフトウェア増減額+減価償却費+特別減価償却費  
 2. ( ) は、ソフトウェア増減額を除いたものである。

第7表 在庫投資と在庫率の推移

(単位：億円、%)

区分	年度		15	16	17	18		
	平成	14						
全産業	△	53,298	△	16,243	9,214	40,872	60,631	
製品・商品	△	26,818	△	7,492	4,236	11,064	32,967	
仕掛品	△	21,813	△	6,615	△	3,000	14,694	
原材料・貯蔵品	△	4,667	△	2,137	7,978	15,114	5,956	
製造業	△	14,641	△	4,290	15,172	21,970	18,552	
石油・石炭		1,878	△	211	3,655	3,974	△	
鉄鋼業	△	1,526	△	416	2,491	2,886	2,117	
一般機械	△	859		1,323	2,236	2,571	3,474	
a電気機械	△	6,779	△	1,245	△	1,026	624	
b情報通信機械					504	1,915	2,011	
[ a + b ]					[ △	522 ]	[ 2,539 ]	[ 4,508 ]
精密機械	△	514		587	719	△	188	778
非製造業	△	38,657	△	11,953	△	5,958	18,902	42,080
建設業	△	17,620	△	8,429	△	1,625	1,296	5,750
卸売・小売業	△	9,982		986	6,360	9,468	17,008	
[含む飲食店]					[ 6,553 ]	[ 9,529 ]	[ 17,070 ]	
不動産業	△	7,521	△	4,052	△	12,057	8,608	15,825
在庫率		7.6		7.2	7.0	7.1	7.2	

(2) 在庫投資 (第7表)

在庫投資額は6兆631億円であり、前年度 (4兆872億円) に比べ1兆9,759億円増加した。

業種別にみると、製造業では、石油・石炭、鉄鋼業で減少したことから、在庫投資額は1兆8,552億円となった。非製造業では、卸売・小売業、不動産業などで増加したことから、在庫投資額は4兆2,080億円となった。

在庫率は7.2%となり、前年度 (7.1%) を0.1ポイント上回った。

4. 資金事情

(1) 資金関連項目の状況 (第8表)

受取手形・売掛金は前年度に比べ増加 (増加率4.7%)、支払手形・買掛金も増加 (同4.0%) となった。

短期借入金は減少 (増加率△9.8%)、長期借入金は増加 (同4.7%) となった。

現金・預金は増加 (増加率4.8%)、流動資産の有価証券は増加 (同15.8%) となった。

手元流動性は10.3%で、前年度比0.1ポイントの上昇となった。

(注) 1. 在庫投資 = 調査対象年度中の棚卸資産増減額  
2. 在庫率 =  $\frac{\text{棚卸資産(期末)}}{\text{売上高}} \times 100$

第8表 資金関連項目の推移 (全産業)

(単位：億円、%)

項目	年度		15		16		17		18									
	平成	14	増加率	増加率	増加率	増加率	増加率	増加率										
受取手形・売掛金	2,053,580	△	5.0	2,066,765	0.6	2,184,149	5.7	2,320,094	6.2	2,427,988	4.7							
支払手形・買掛金	1,697,824	△	3.0	1,735,343	2.2	1,797,451	3.6	1,910,030	6.3	1,986,788	4.0							
短期借入金	1,874,462	△	6.3	1,759,538	△	6.1	1,744,841	△	0.8	1,799,672	3.1	1,623,641	△	9.8				
長期借入金	2,705,051	△	0.9	2,564,788	△	5.2	2,657,495	3.6	2,499,726	△	5.9	2,617,533	4.7					
現金・預金	1,334,888		2.0	1,290,603	△	3.3	1,370,709	6.2	1,403,814	2.4	1,471,060	4.8						
流動資産の有価証券	131,425	△	5.6	114,758	△	12.7	156,103	36.0	135,477	△	13.2	156,848	15.8					
手元流動性			11.3			10.4					10.6			10.2				10.3

(注) 手元流動性 =  $\frac{\text{(現金・預金+流動資産の有価証券)} \text{ (期首・期末平均)}}{\text{売上高}} \times 100$

(2) 資金調達状況 (第9表)

18年度の資金調達は63兆2,820億円となり、前年度(74兆5,814億円)を11兆2,994億円下回った。

外部調達は、長期借入金が増加し、他の科目は引き続きマイナスであったが、減少幅は前年度より縮小した。

内部調達は、内部留保が減少したため、調達額は前年度より減少した。

第9表 資金調達の推移

(単位: 億円、%)

区分	平成 14		15		16		17		18	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
資金調達	177,127	100.0	459,989	100.0	476,754	100.0	745,814	100.0	632,820	100.0
外部調達	△235,477	△132.9	△260,079	△56.5	△319,678	△67.1	△264,844	△35.5	△140,460	△22.2
増資	△42,755	△24.1	△80,305	△17.5	△169,474	△35.5	△154,128	△20.7	△110,646	△17.5
社債	△18,297	△10.3	399	0.1	△15,781	△3.3	△10,899	△1.4	△1,331	△0.2
借入金	△174,425	△98.5	△180,173	△39.2	△134,423	△28.2	△99,816	△13.4	△28,483	△4.5
長期	△106,676	△60.2	△40,803	△8.9	△59,972	△12.6	△57,092	△7.7	18,214	2.9
短期	△67,749	△38.3	△139,370	△30.3	△74,451	△15.6	△42,724	△5.7	△46,697	△7.4
内部調達	412,604	232.9	720,068	156.5	796,431	167.1	1,010,657	135.5	773,280	122.2
内部留保	22,404	12.6	291,999	63.5	360,421	75.6	581,046	77.9	334,227	52.8
減価償却	390,200	220.3	428,069	93.1	436,010	91.5	429,612	57.6	439,053	69.4

- (注) 1. 増資は資本金及び資本準備金の調査対象年度中の増減額。  
 2. 短期借入金には受取手形割引残高を含む。  
 3. 内部留保は利益留保、引当金、特別法上の準備金、その他の負債(未払金等)の調査対象年度中の増減額。ただし、企業間信用差額{(受取手形+充掛金+受取手形割引残高)-(支払手形+買掛金)}の調査対象年度中の増減額の値が負の場合は内部留保を含む。  
 利益留保はその他資本剰余金、利益剰余金、その他(土地の再評価差額金、金融商品に係る時価評価差額金等)、自己株式の調査対象年度中の増減額。  
 4. 減価償却には特別減価償却を含む。

第10表 自己資本比率の推移

(単位: %)

5. 自己資本比率 (第10表)

自己資本比率は32.8%となり、前年度より2.7ポイント上昇した。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに前年度を上回った。

資本金階層別にみると、1,000万円未満の階層では前年度を

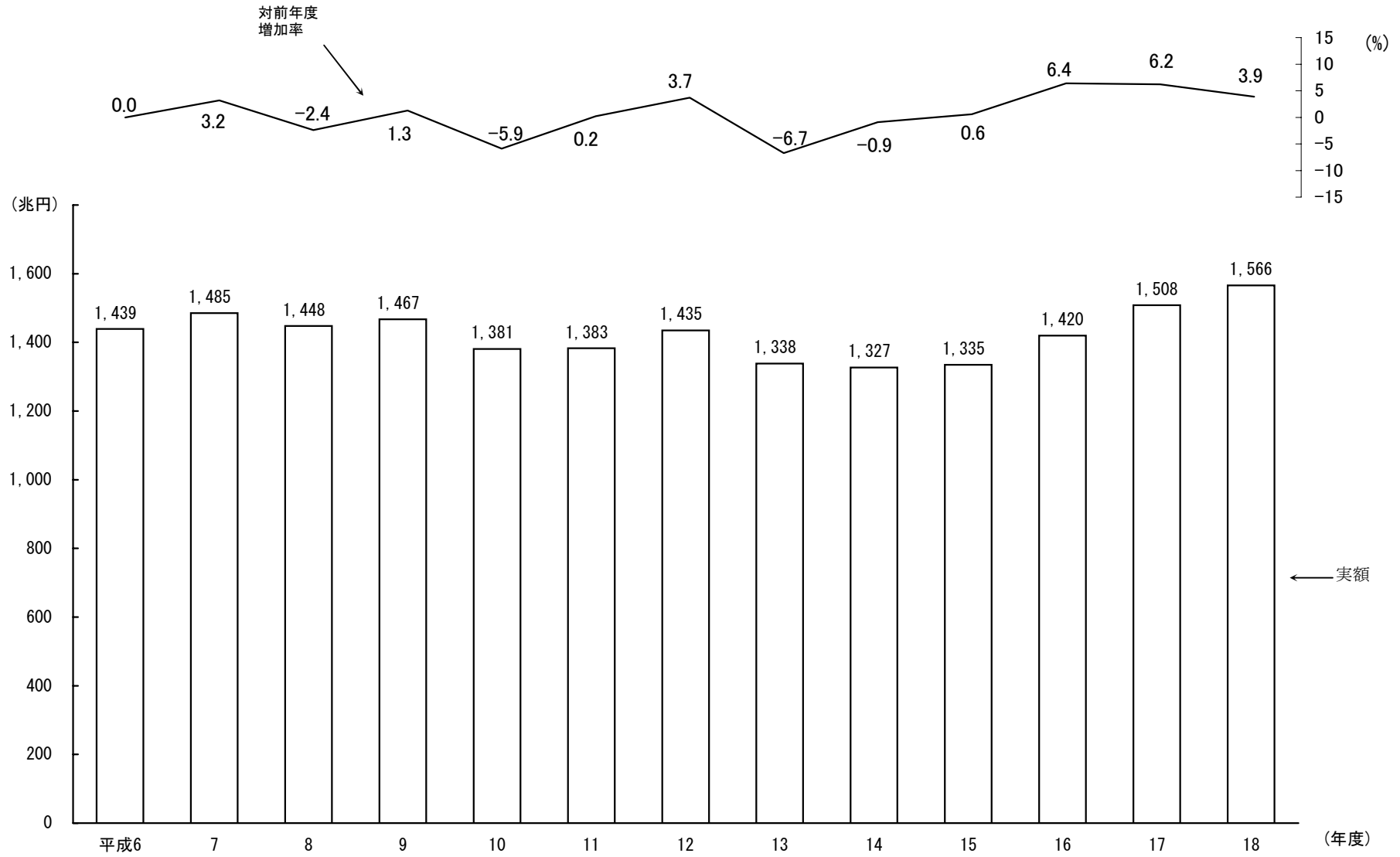
下回ったが、他の階層においては前年度を上回った。

区分	平成 14	15	16	17	18
全産業	27.4	28.3	29.8	30.1	32.8
製造業	39.0	40.7	42.3	42.7	43.8
非製造業	22.0	22.5	24.2	24.3	27.7
資本金別					
10億円以上	33.7	35.7	37.4	39.1	39.4
1億円～10億円	24.1	25.2	27.8	26.0	29.0
1,000万円～1億円	23.0	23.3	23.4	22.6	29.0
1,000万円未満	10.2	4.5	11.5	10.1	9.9

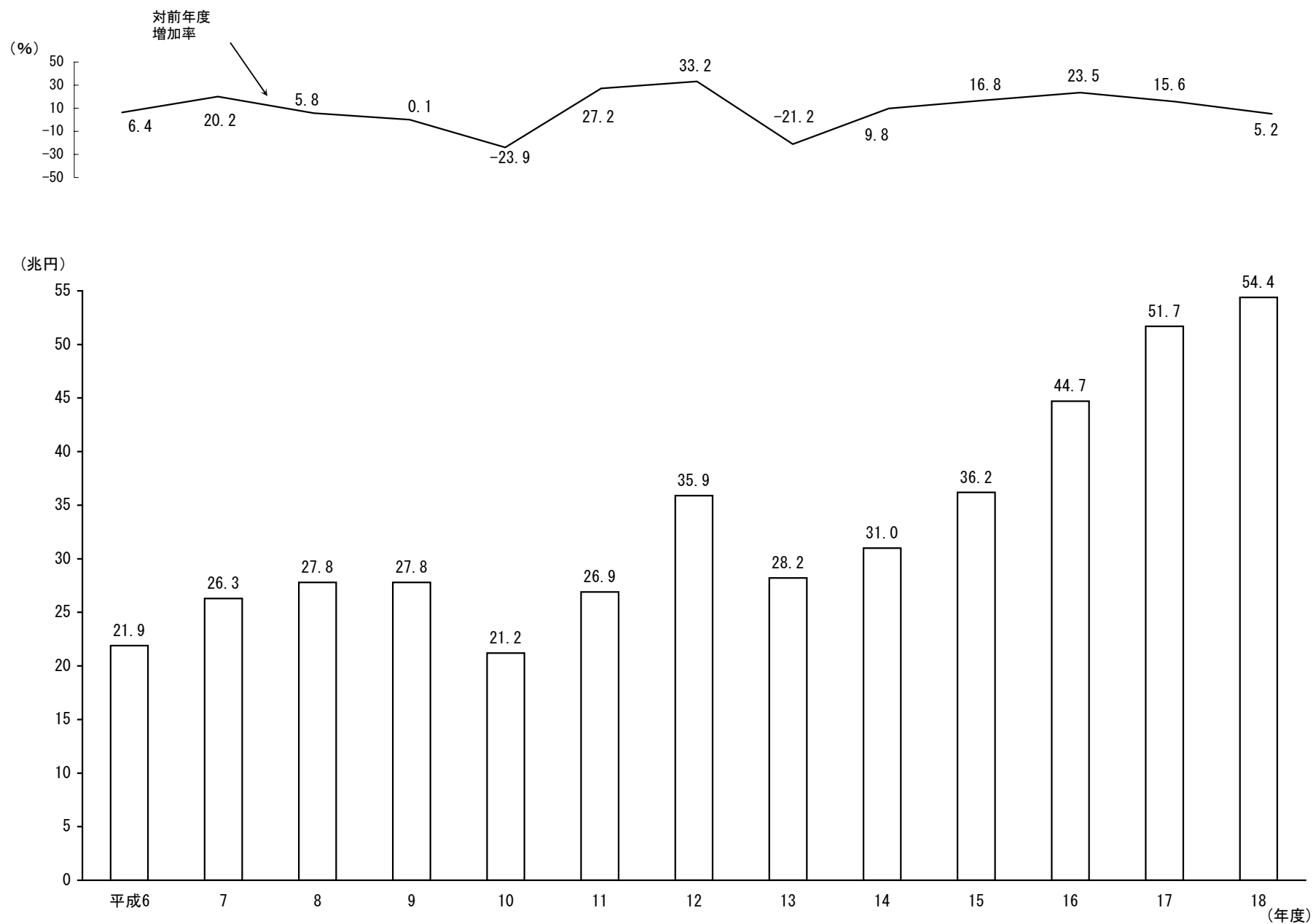
(注) 自己資本比率 =  $\frac{\text{自己資本}}{\text{総資本}} \times 100$



第 1 図 売 上 高



## 第 2 図 経 常 利 益



第 3 図 付 加 価 値 の 構 成

(兆円)

